



みんなで育む 学びのまち 真室川

～ふるさとを愛し 高い志をもって 未来をひらく 人づくり～



第6弾

真室川スタディツアー 学びのしおり



平枝番楽

大人の
社会科見学
第6弾

小学生からOK!

真室川
スタディツアー
いま、真室川が
おもしろい!

「歴史と文化への誘い
in 差首鍋・平枝 編」

令和3年10月23日(土)

8:30～



滝応寺



ふるさと伝承館



不動明王の滝



象獅子(獅子岩)



差首鍋館跡から見た
大平地区・大池地区

真室川町を学ぶ一日。学びたい大人のための「社会科見学」で、真室川町がもっと好きになる!

【ツアー行程】マイクロバスで移動します

受付(8:00～8:30) ⇒ 開講式・オリエンテーション ⇒ 象獅子(獅子岩) ⇒ 正厳院 ⇒ 不動明王の滝 ⇒ ふるさと伝承館(平枝番楽・昔話) ⇒ 差首鍋館跡 ⇒ 滝応寺 ⇒ 閉講式(12:30頃終了予定)

真室川町教育委員会 真室川町中央公民館

第6回真室川スタディツアー「いま、真室川が面白い！」

歴史と文化への誘い in 差首鍋・平枝 編

開 講 式 次 第

会 場：中央公民館玄関前

※雨天時は中央公民館研修室

時 間：8：30～8：40

1. 開 会
2. 主催者あいさつ
3. 講師紹介
4. オリエンテーション
 - (1) 事業の概要・タイムテーブル
 - (2) 事務連絡(体調管理等の諸注意を含む)
5. 閉 会

閉 講 式 次 第

会 場：中央公民館研修室

時 間：12：00～12：30

1. 開 会
2. 修了証交付
3. 主催者あいさつ
4. 振返り(アンケート)記入
5. 閉 会

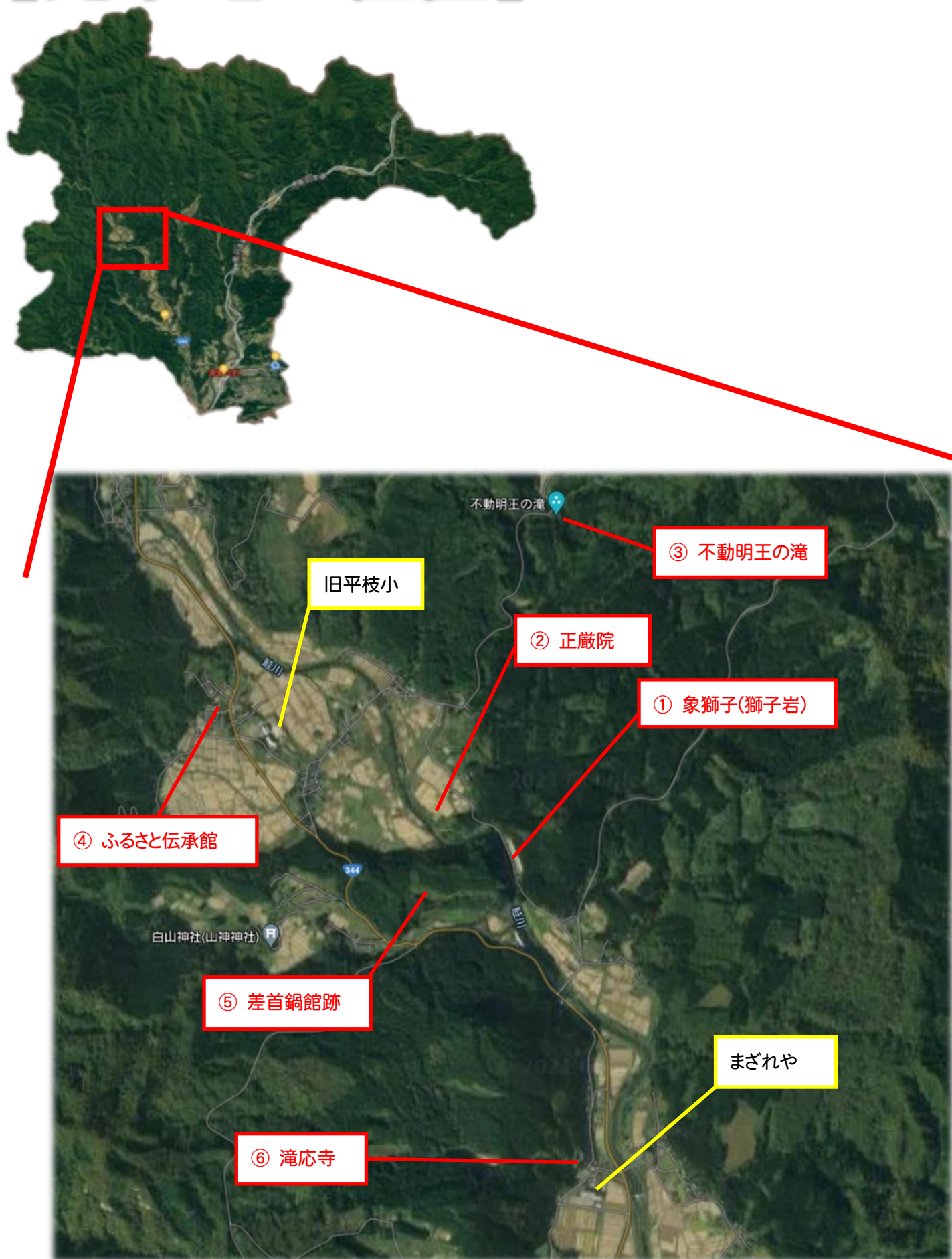


【スタディツアーについて】

真室川町のスタディツアーにご参加いただき、誠にありがとうございます。

真室川町にはたくさんの宝物がありますが、地域の方々からは「真室川町には何もない」との声がしばしば聞かれます。子ども達は学校での「ふるさと学習」により、地域の宝物を多く学んでいます。しかし、その親・祖父母世代である大人は、真室川の本当の宝物や魅力を知らないままに生活している方が、案外いらっしゃるのではないのでしょうか。そのようなことから、今回、改めて地域の宝を再発見する社会科見学を企画しました。子ども達と一緒に大人も町の良さを見つめなおすことで、「真室川町にはいいところがたくさんある」と自信を持って言える方が増えることを期待しています。

【見学地の位置】



【真室川町の概要】

(令和3年9月末現在)

○人口:**7,145** 人 ○世帯数:**2,627** 世帯

町のシンボル

◎町の木 「梅の木」



◎町の鳥 「ウグイス」



◎町の音頭 「真室川音頭」



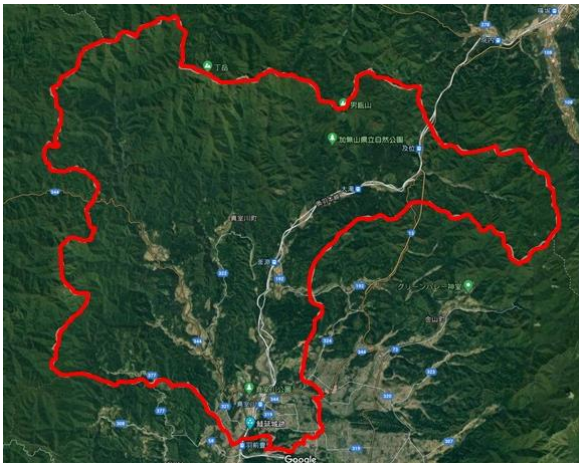
◎町の花 「梅」



◎町の魚 「ハナカジカ」



◎町の昆虫 「ハッチョウトンボ」



地目	面積(km ²)	割合(%)
山林	295.05	78.8
田	20.61	5.5
畑	3.17	0.8
宅地	2.44	0.7
原野	9.22	2.5
その他	43.73	11.7
合計	374.22	100

(H31.1.1 時点)

真室川町は、山形県の内陸最北部に位置し、北側は秋田県に接している。

町の約 79%が山林の中山間地域であるため、古くから林業・農業が盛んである。

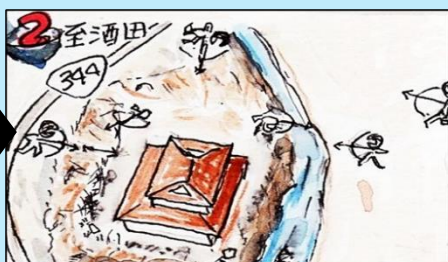
また、各地区には伝統文化が数多く継承されており、番楽・囃子・わらべ唄のほか、伝承野菜等も引き継がれている。

【「差首鍋」の由来】

- 「差首鍋」という地名には、いくつかの説があるといわれている。
ここでは、諸説の中から、有力とされているもの、また地元で言い伝えられているものを紹介する。

【1. 地元で語り継がれるもの(戦乱由来)】 ※まざれや倶楽部・有志調べ

- ①戦国時代、館主である沓沢玄蕃と、最上義光の戦いがあった。
- ②最上氏の軍勢に城を包囲されたが、水が湧いていたためなかなか落城しなかった
- ③長期戦となり、清水が枯れ果てた。
- ④城から**首**を**差**し出し、あることに気づき、
- ⑤**鍋**を吊るし、城下の川へ投げ入れた。
- ⑥川から水を汲み上げ、
- ⑦その水で耐え忍んだことから、「下げ鍋」⇒「指首鍋」⇒「差首鍋」説と、「首を差し出すように鍋を吊るした⇒差首鍋」説が伝えられている。



【2. 朝鮮由来とされるもの】 ※山形地名伝説(山形新聞社)から引用

古い辞書によっては「差鍋(さしなべ)」、「銚子(さしなべ)」と書き、酒を温める鍋を指し、昔の朝鮮においては「城」を意味したとされる。差首鍋地区にそびえる「丸山」には、朝鮮が「新羅(しらぎ)」であった頃に渡来人が移住し、石窟(せつくつ)を構えた形跡があることから、「差首鍋」の語源になった。

【3. アイヌ語由来とされるもの】

アイヌ語のサス(砦)、ナイ(川)、ペ(所)から、「サスナイペ⇒サスナベ⇒差首鍋」と言葉が変化した。

その他諸説ありとされています。

【「差首鍋」各地区名の由来】

地区名 (ふりがな) [地元の読み方]	由来	地区名 (ふりがな) [地元の読み方]	由来
高 坂 (たかさか) [たがさが]	・昔から庄内と交流が盛んで、 高い坂 道を通る庄内街道があったため	山 屋 (や ま や) [や ま や]	・山のある家⇒山屋 ・山ぎわの？
野 中 (の な か) [の な が]	・昔、田んぼを野(の)と言ったところがあり、以前の家が 野 の 中 にあったため ※「野中」は1軒のみ、地区名ではなく「屋号」	太 郎 水 (たろみず) [たろみず]	・江戸時代の古文書にも太郎水とあるが、いわれを知る人はいない
平 枝 (ひらえだ) [ひ れ だ]	・となりの地区「大 平 」から 枝 別れして、 平 らな所に集落を作ったため	詰 田 沢 (つめたざわ) [つ め ざ]	・沓 沢 玄蕃がたて山から攻め落ちるとき、攻め 詰 めた所だったため
大 平 (おおだいら) [お で ら]	・昔、大平は現在の平枝を含めた 大 きく 平 たい台地であったため	沼 の 頭 (ぬまのかしら) [ぬまのがしら]	・昔、たかはげ(山)が崩れて 沼 地になった所があったため ・中村湿原周辺の「つなぎ 沼 」の 頭 (北の方)
大 池 (おおいけ) [お い げ]	・昔、象獅子の所が狭くなっていたころ、大平・大池周辺は 大 きな 池 だったため ・昔、象獅子の川床が高く、大池周辺は 大 きな 池 のようだったが、洪水のたびに池がなくなり、現在の形になったため	沼 田 (ぬ ま た) [ぬ ま だ]	・戦前は「 沼 の頭」だったが、終戦後に「詰 田 沢」と一緒になり、「沼田」となった
干 泥 肥 泥 (ひ ど ろ) [ひ ど ろ]	・大池周辺が池だった頃、泥が溜まった場所だったため ・一面に溜まった泥が乾燥し、 干 した 泥 になると田畑に利用されたため ・溜まった 泥 が、 肥 料のいらない土地だったため	中 村 (なかむら) [ながむら]	・沼田と山屋の真ん 中 の 村 であるため ・「 中 」という 村 から「 中 の 村 ⇒中村」 ・昔の川は山屋側を流れていて中村川の面積が広く、「 中 中央にある 村 ⇒中村」
谷地の沢 (やちのさわ) [や じ さ]	・上流に大水芭蕉の群生する湿地帯があり、地区西方が一面 谷地 (湿地)だったため ・上流に 谷地 が多く洞窟で、塩の岩屋やコシノ岩屋等があり、地区周辺も谷地だったため	滝 の 上 (たきのうえ) [たぎねえ]	・ 滝 の 上 の方に集落があるため ・入口は洲崎と言われるが、寺沢の 滝 の前に中州があり、その前に集落があるため ・滝の上に高田という所があった(高田⇒滝の上？)
西 川 (にしかわ) [に し が]	・ 西 の方から 川 が流れてくる流域だったため	長 里 中 里 (ながさと) (なかさと) [ながさんど]	・明治初期は4軒ほどであり、戸数のわりに 長 い 里 だったため(地図上は 長里) ・後に 長里 ⇒ 中里 (地元では 中里)

その他諸説ありとされています。

① 象獅子

【象と獅子の伝説】 ※まざれや倶楽部・有志調べ



①昔、川岸で象と獅子が水争いで口論していた



②ケンカとなり、獅子が象に飛びかかり、額に噛みついた



③長年の風化と大水により、鼻の盛り上がり小さくなった



④現在獅子は道路移設後も移動して祀られている



獅子岩



【メモ】

町内沼田地区と大池地区を結ぶ町道に獅子岩が祀られている。また、鮭川を挟んだ向かい側の法面には、象の鼻の形をした岩があったとされているが、風化や大水等の影響か、現在は確認することができない。

② 正厳院



正厳院



古文書の数々



五代目隆栄氏が描いた掛け軸



銅鏡

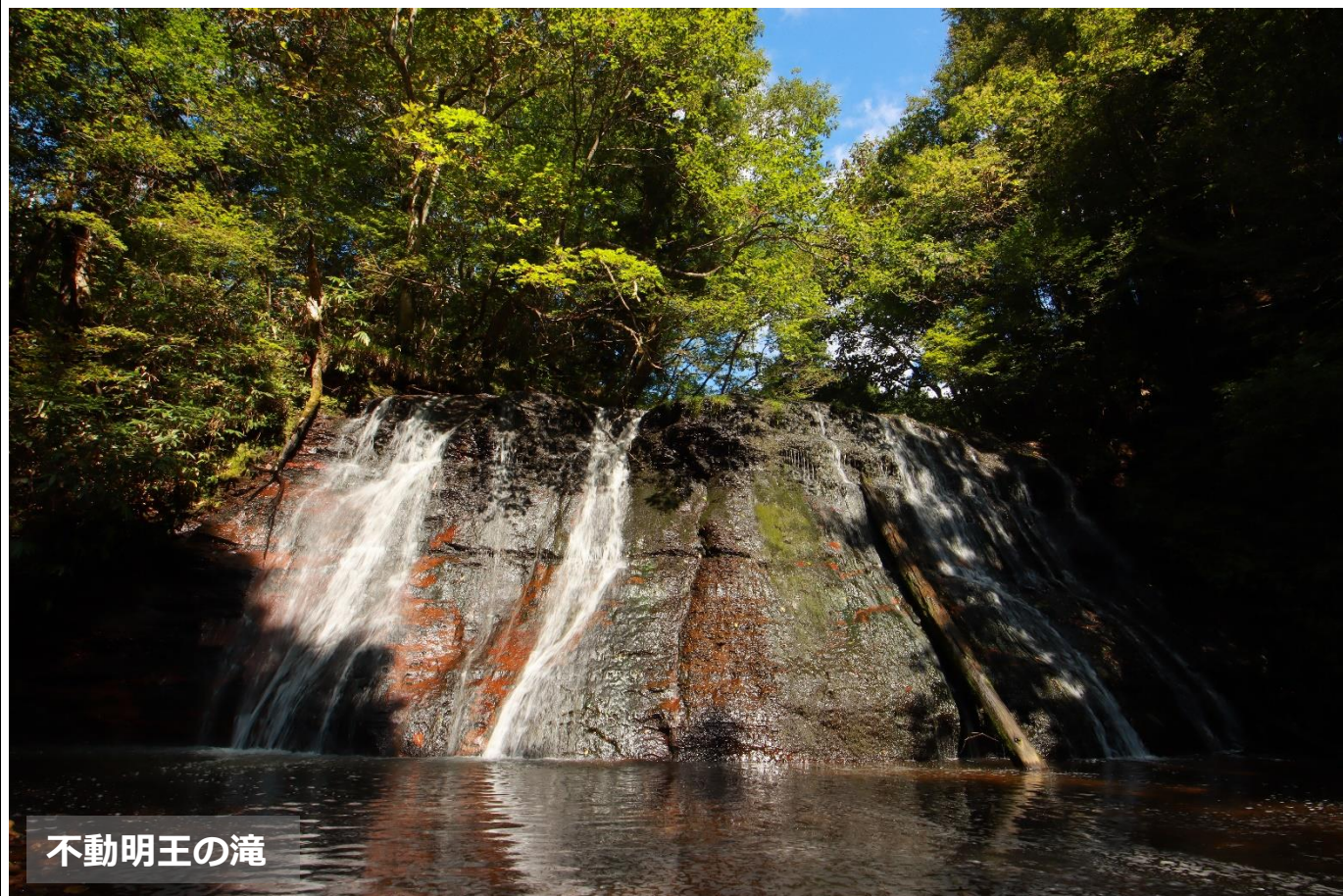
【メモ】

小池山正厳院は、町内大池地区に社殿があり、現在は八代目に当たる 櫻本 義隆氏が宮司を務めている。創設からの成り立ちには①修験者が秋田城下から横手、湯沢、院内を經由して移動し、現在の位置に落ち着いた。②沓沢玄蕃が差首鍋館を築いたことに伴い修験者が集まったため、修験の場あるいは館の守り神として開設した。といったもののほか、諸説ある。

社殿には、ご神体のほか、藤原光長(江戸時代中～後期の鏡師)作と思われる銅鏡や、五代目に当たる隆栄氏が描いた掛け軸、寺社奉行からの通知文書など、歴史的な資料や物品が多数保管されている。

なお、隆栄氏が描いた絵は、滝応寺にある(ふすま絵)ほか、町内数か所に保管されている。

③ 不動明王の滝



【メモ】

不動明王の滝は、町内谷地の沢地区の南端、町道から車を降りて5分程度歩いた先にある、滑瀑の滝である。

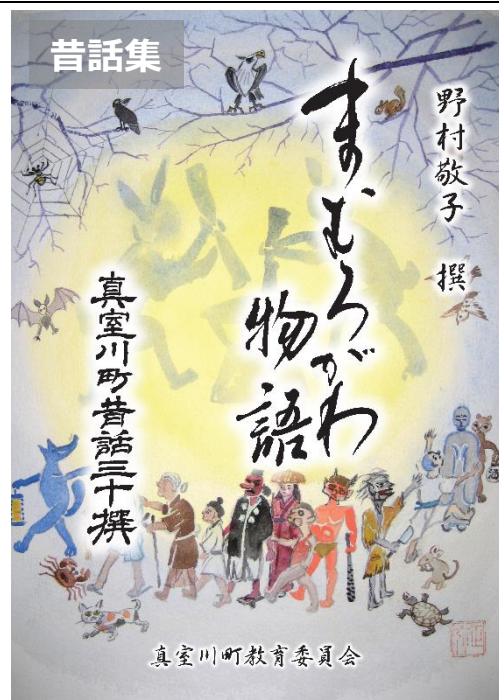
滝の落差は約5m、幅は約10mとそれほど大きくはないが、滑らかな一枚岩の岩肌を白く滑り落ちる様子が大変涼やかである。

四季折々、趣のある豊かな表情を見ることができる。

④ 平枝番楽・むかし語り



ふるさと伝承館



平枝番楽(神明神社への奉納)



平枝番楽(番楽公演)

【メモ】

平枝番楽は、江戸時代の半ばに秋田県矢島地方から伝えられたとされる5拍子の番楽である。

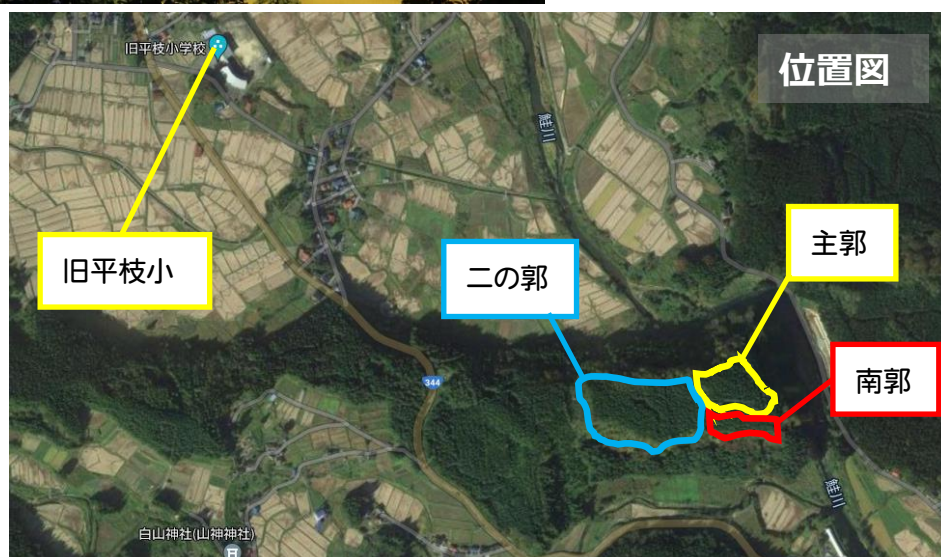
平枝地区では、毎年、旧暦の8月1日に神明神社の祭りで神社において五穀豊穡、家内安全、悪魔祓いなどを祈願し、獅子舞を奉納したのち、ふるさと伝承館において番楽公演を行っている。(かつては宿入りし、夜通しで番楽を舞い、その後各戸を「門獅子」が廻り、悪魔祓いを行った。)

昭和48年には平枝番楽保存会を設立し、地区内の集落全戸を会員としている。

昭和55年からは「平枝少年番楽」として旧平枝小と連携した伝承活動を開始し、現在は真室川あさひ小学校児童への指導を行っており、「少年番楽」経験者が舞手、囃子手として保存会の会員となり、活動を行っている。

⑤ 差首鍋館跡

差首鍋館跡から見た大平・大池地区



参考：山形県中世城館遺跡調査報告書(山形県教育委員会)

【メモ】

沓沢玄蕃によって戦国期に築城された主郭と副郭からなる複郭式城郭で、西川と大沢川の合流地点北西に大きく舌状にはりだした台地に築かれており、北・東・南の三方を断崖絶壁に囲まれた天然の要害に恵まれている。

初代館主の沓沢但馬忠久は、近江の沓沢庄から最上氏を頼ってきて、この地を賜った。しかし、沓沢掃部介忠国の時代になると、最上義光の攻撃により、滅ぼされた。嫡子兵庫助忠家がその跡を継ごうとしたが、幼少のため、その代わりとして、野崎館の家老であった沓沢玄蕃が居住したという。

なお、東斜面に「穴から首を差し出し、鍋を大沢川に下ろして水を汲み上げた」という地名伝説があるほか、南斜面にも出水所跡地の伝承が残されている。

※山形県中世城館遺跡調査報告書(山形県教育委員会)から引用

⑥ 滝応寺

滝応寺



滝応寺(正門)



【メモ】

当地方を開いた浅川茂平によって開かれた曹洞宗の寺で、山号を東陽山という。浅川は酒田城主東禅寺右馬頭の家臣であったが、東禅寺氏から当地方の代官として遣わされたという。

浅川氏が赴任に当たって主君から賜り奉持してきた地蔵尊が、現在同寺にまつられている黒地蔵であるといい、当時この地方にはしかるべき寺院がなかったため、この黒地蔵でもって衆生を済度せよということであったという。

浅川茂平の没年は明らかでないが、「鮭延越前守侍分限帳」にある「高六百石浅香武兵衛」と同一人物ではないかと思われ、また、「新庄古老覚書」所収の寛永七年(1630)の「真室川境覚」にある「城下川(此堺かにや中森)浅川無兵衛」も、茂平と関係のある人物と思われる。

滝応寺の開創は天和元年(1681)というが(「山形県寺院大観」)、事実はずっと古いものと思われる。

※「真室川町史」から抜粋

【タイムテーブル】

時 刻	内 容	摘 要	所 要 時 間
8:00	受付開始		30 分
8:30	開講式	中央公民館玄関前 ※雨天時は研修室	10 分
8:40	バス移動(中央公民館⇒象獅子)		20 分
9:00	象獅子	説明者:沓澤悌一 氏	5 分
9:05	バス移動(象獅子⇒正厳院)		5 分
9:10	正厳院	説明者:正厳院宮司 櫻本義隆 氏	15 分
9:25	バス移動(正厳院⇒不動明王の滝)		10 分
9:35	不動明王の滝	説明者:沓澤悌一 氏	10 分
9:45	バス移動(不動明王の滝⇒伝承館)		10 分
9:55	ふるさと伝承館	説明者:平枝番楽保存会会長 高橋章 氏 社会教育指導員 大友・矢口	30 分
10:25	バス移動(伝承館⇒差首鍋館跡)		5 分
10:30	差首鍋館跡	説明者:沓澤悌一 氏	50 分
11:20	バス移動(差首鍋館跡⇒滝応寺)		10 分
11:30	滝応寺		10 分
11:40	バス移動(滝応寺⇒中央公民館)		20 分
12:00	閉講式	中央公民館研修室	30 分